

■「女性を人間と見ていない」

【ニューデリー時事】女性人権活動家でノーベル平和賞受賞者のマララ・ユスフザイさんは12日、女性教育を厳しく制限するアフガニスタンのイスラム主義組織タリバン暫定政権に対し、「女性を人間と見ていない」と厳しく非難した。



12日、パキスタンの首都イスラマバードで開かれた国際会議で演説する女性人権活動家でノーベル平和賞受賞者のマララ・ユスフザイさん（EPA時事）

母国パキスタンの首都イスラマバードで開かれたイスラム世界での女性教育推進を目的とした国際会議で演説した。「『ジェンダー・アパルトヘイト』（性別に基づく隔離）を推し進める暫定政権はイスラム的ではないことは明らか」とし、出席した各国高官らに「（体制を）正当化しないで」と訴えた。マララさんは2012年、イスラム武装勢力「パキスタン・タリバン運動（TTP）」に銃撃された。一命を取り留めた後も女性教育推進を訴え活動。生活拠点は現在英国に置いている。暫定政権は極端なイスラム法解釈に基づき、中等教育課程以上の女性教育を禁じた。昨年12月には女性の看護師や助産師を養成する医療教育も禁止した。